

喜多流能 森舞台公演

舞囃子 月宮殿

能 杜若

かきつばた

佐々木宗生

佐々木多門

(写真) 佐々木宗生 所演

2020年 5月30日(土) 開演 14時
[開場 13時]

登米町伝統芸能伝承館
「森舞台」

宮城県登米市登米町寺池上町 42

チケット発売開始 3月16日(月)10時

直接ご購入の場合

(株)とよま振興公社 ☎0220-52-5566
(株)米谷建設 ☎0220-52-3546
登米謡曲会会員

電話予約・郵送をご希望の場合

①事務局(0220-52-3546)に電話して席種と代金を確認
②指定口座に代金振込(手数料は振込者のご負担となります。)
振込先 仙台銀行 登米支店 普通 0009472
喜多流能森舞台公演実行委員会 菅原かほ子
③ご入金を確認後、チケットを郵送
※5月16日(土)以降は直接ご購入ください

入場料 A席(正面自由席) 5000円
B席(脇・中正面自由席) 4500円
学生 2000円
中学生以下無料

主催 / 登米謡曲会

共催 / 宮城県 登米市 登米市教育委員会

後援 / とよま振興公社 (一)登米市観光物産協会 佐沼ライオンズクラブ 河北新報社 仙北郷土タイムス 大崎タイムス社 TBC東北放送 ミヤギテレビ KHB東北放送 HeiFM



建築家 隈研吾氏 設計 伝統芸能伝承館「森舞台」
写真提供: 宮城県観光課

お問い合わせ 喜多流能 森舞台公演実行委員会事務局 (株)米谷建設内米谷甚七 ☎0220-52-3546



喜多流能 森舞台公演 番組

開場 十三時
開演 十四時

能の鑑賞について（能楽師による解説）

舞囃子 月宮殿 佐々木 宗生

大鼓 佃 良太郎 太鼓 小寺真佐人
小鼓 住駒 充彦 笛 栗林 祐輔

地謡

内田 成信 佐藤 寛泰
狩野 了一 友枝 真也

休憩 十五分

シテ・里女（杜若の精） 佐々木 多門

能 杜若 ワキ・旅僧 館田 善博

大鼓 佃 良太郎 太鼓 小寺真佐人
小鼓 住駒 充彦 笛 栗林 祐輔

後見 佐々木 宗生
大島 輝久

地謡 菊池 幸介 狩野 了一
友枝 真也 長島 茂
佐藤 寛泰 内田 成信

終演予定

十六時三十分頃

舞囃子 月宮殿（げつきゅうでん）

新春の節会に、百官と鶴亀の慶賀を受けた天子が自らも喜び立って、舞楽の秘曲を狂重に舞う。

能 杜若（かきつばた）

東国へと修行の旅にでた都方の僧が、三河国今の愛知県東部の八橋の沢辺に休み、咲匂う杜若の花に見とれていると、里の女が現れて声を掛けてくる。女は『伊勢物語』に書かれている八橋の杜若についての故事を語り出す。

からころも きつつなれにし つましあれば
はるばるきぬる たびをしぞおもふ

この歌は在原業平の詠んだ「かきつばた」の五文字を織り込んだ歌で、杜若は業平の形見の花なのだとい、僧に一夜の宿を貸しましょうと自分の庵室へと招き入れる。

やがて女はきらびやかな装束に身を包んだ姿で現れたので、僧が不審に思っ問うと、この装束こそ、業平が思いをかけた高子の後の御衣で、杜若の歌に詠まれた「唐衣」、冠は業平が宮中での豊明の節会において五節の舞を舞ったときの「初冠」であると答え、じつは自分は杜若の精霊であると明かす。

花の精は、業平の歌の恵みによって草木までも成仏出来るのだと語り、また『伊勢物語』の業平のあまたの恋物語を優美に舞う。次第に夜が明けて空が白んでくると、精霊は成仏の姿となって消えていくのであった。

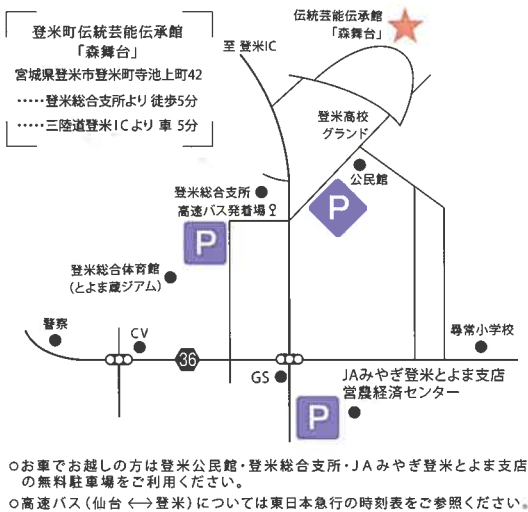
歌聖・在原業平を菩薩の仮現として賛美し、花の精と男装の麗人のイメージをも重ねて、優美な舞が展開される初夏の名曲です。

佐々木 多門

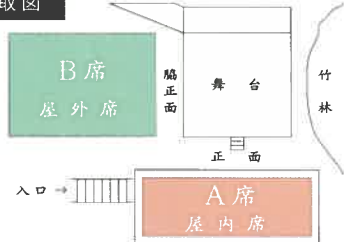


能楽シテ方喜多流職分。日本能楽会会員（重要無形文化財総合指定）。1972年盛岡生。職分佐々木宗生の長男。宗家内弟子を経て現在、職分塩津哲生に師事。東京での活動とともに、中尊寺新能仙台青葉能白石碧水園能等、東北の能楽振興に重きをおきながら、国内外各地の公演に参加。「狸々乱」「道成寺」「翁」をゆかりのある中尊寺能舞台にて披露。社中会である「喜校会」「桜楽会」「東京多門会」を主催。登米には隔月に稽古指導に来訪。このたび父より引き継ぎ、登米謡曲会講師の任に就く。

会場案内図



観覧席見取図



○雨天決行。
○B席は雨天時に雨具の用意が必要です。
○演能中止以外は料金の払い戻しはいたしません。